

ナガセクロツチバチ（ハチ目：ツチバチ科）の追加記録とメスの再発見

阿部純大¹・河野太祐²

¹ 〒 819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学農学部昆虫学教室

² 〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学総合研究博物館

はじめに

ツチバチ科は有剣ハチ類に含まれる比較的大型のハチであり、日本からは4属25種が記録されている(三田, 2020)。このうち、ミヘヤツチバチ属 *Liacos* は、ツマキツチバチ *L. erythrosoma* とナガセクロツチバチ *L. melanogaster* の2種が知られ、ツマキツチバチは腹部第3節以下が赤褐色であるのに対し、ナガセクロツチバチは腹部全体が黒色であることにより容易に区別される(寺山・長瀬, 2016)。

ナガセクロツチバチは、鹿児島県大隅半島において採集された個体(2オス, 1メス)をもとに記載された(Tsuneki, 1982)。その後長らく追加の採集記録がなく、環境省レッドリストおよび鹿児島県レッドリストで準絶滅危惧に選定されるなど、絶滅が危惧されていた(環境省自然環境局野生生物課, 2020; 山根・河野, 2016)。しかし、近年、河野ほか(2021)により本種が鹿児島県北部の新産地とともに38年ぶりに再発見された。

筆者らは大隅半島にて2019年と2020年に河野ほか(2021)の記録にて報告がなかったメス個体を含む複数個体を確認しているため、追加の記録として報告する。

材料と方法

採集した個体は酢酸エチルを用いて殺した後、乾燥標本にした。標本写真にはα7R IV デジタルカメラ(ソニー株式会社)にMC-11 マウントコ

ンバーター(株式会社シグマ)を用いてMP-E 65mm 1:2.8 1-5x マクロレンズ(キヤノン株式会社)を接続したカメラユニットを使用した。このカメラユニットをWe Macro Rail (We Macro 社)に固定し、コンピューター制御により100枚ほどピントをずらした写真を撮影した。撮影光源にはTT560 スピードライト(Neewer 社)とワイヤレスフラッシュトリガー(Yongnuo 社)を接続した照明ユニットおよび自作のディフューザーを使用した。得られた写真をZerene Stacker (Zerene System 社)を使用して焦点深度合成を行った。なお本報告で使用した標本は九州大学農学部昆虫学教室に收藏される。

***Liacos melanogaster* Tsuneki, 1982**

ナガセクロツチバチ

(Fig. 1)

【JAPAN: Kyūshū】1♂, Kagoshima-ken, Kimotsuki-gun, Mianmiōsumi-chō, Satahetsuka (鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚), 12 VIII 2019; 1♂, same locality data, 13 VIII 2019; 1♀, same locality data, 10 IX 2020; 1♂, same locality data, 11 IX 2020; 1♀, same locality data, 12 IX 2020. 全て阿部が採集。

採集したのはいずれも日中である。今回本種を採集した場所は吹上のような環境でかつギャップになっており、地上から周囲の樹冠部を観察で

Abe, J. and T. Kawano. 2021. Additional records of *Liacos melanogaster* Tsuneki, 1982 (Hymenoptera: Scoliidæ) with rediscovery of females. *Nature of Kagoshima* 48: 31–32.

✉ JA: Entomological Laboratory, Faculty of Agriculture, Kyushu University, 744 Motoooka, Nishi-ku, Fukuoka 819-0395, Japan (e-mail: ff.my.j.r@gmail.com).

Received: 22 June 2021; published online: 23 June 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-005.pdf



Fig. 1. ナガセクロツチバチ, メス, 側面. スケール: 5 mm.
Fig. 1. *Liacos melanogaster* Tsuneki (female), lateral view. Scale bar: 5 mm.

きた。樹冠部には本種を含め多くのナミツチバチ族 *Scoliini* が飛翔していた。なお、本種のメスは、原記載時に用いられた1個体以外は知られておらず (Tsuneki, 1982), 今回の記録が2例目および3例目の記録となる。

備考 本種は8月中旬から9月上旬にカラスザンショウやリョウブに訪花することが知られる (長瀬, 1979; 河野ほか, 2021) が, その他の生態学的知見は少ない。今回の採集地の構造と採集時の観察から, 本種は日中に林冠部を飛翔し, 訪花先を探していると考えられる。

なお, 河野ほか (2021) では, 本種のカラスザンショウへの訪花記録は長瀬 (1982) にあると述べているが, 正しくは長瀬 (1979: 3) である。

謝 辞

採集時の情報を提供してくださった松元音旺氏 (九州大学), 本稿執筆にあたりご助言いただいた久末遊氏 (同) に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 環境省自然環境局野生生物課, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <http://www.env.go.jp/press/107905.html> (2021年5月13日参照).
- 河野太祐・松元音旺・山根正気, 2021. 鹿児島県固有種, ナガセクロツチバチ *Liacos melanogaster* Tsuneki (ハチ目: ツチバチ科) の再発見. *Nature of Kagoshima*, 47: 399–401.
- 三田敏治, 2020. ツチバチ科. Pp. 161–167. 日本昆虫目録編集委員会 (編) 日本昆虫目録, 9 (3). 権歌書房, 福岡.
- 長瀬博彦, 1979. 南九州の蜂 —1—. *蜂友通信*, 9: 1–3.
- 長瀬博彦, 1982. 南九州の蜂 —4—. *蜂友通信*, 14: 57–78.
- 寺山 守・長瀬博彦, 2016. ツチバチ上科 *Scolioidea*. Pp. 248–263, 600; pl. 56. 寺山 守・須田博久 (編著) 日本産有剣ハチ類図鑑. 東海大学出版部, 平塚.
- Tsuneki, K., 1982. A new species of *Scoliidae* from Japan (Hymenoptera). *Special Publications of the Japan Hymenopterists Association*, 23: 3–5.
- 山根正気・河野太祐, 2016. ナガセクロツチバチ. P. 155. 鹿児島県環境技術協会 (編集委託・発行) 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 Red Data Book 2016 動物編, 鹿児島県.